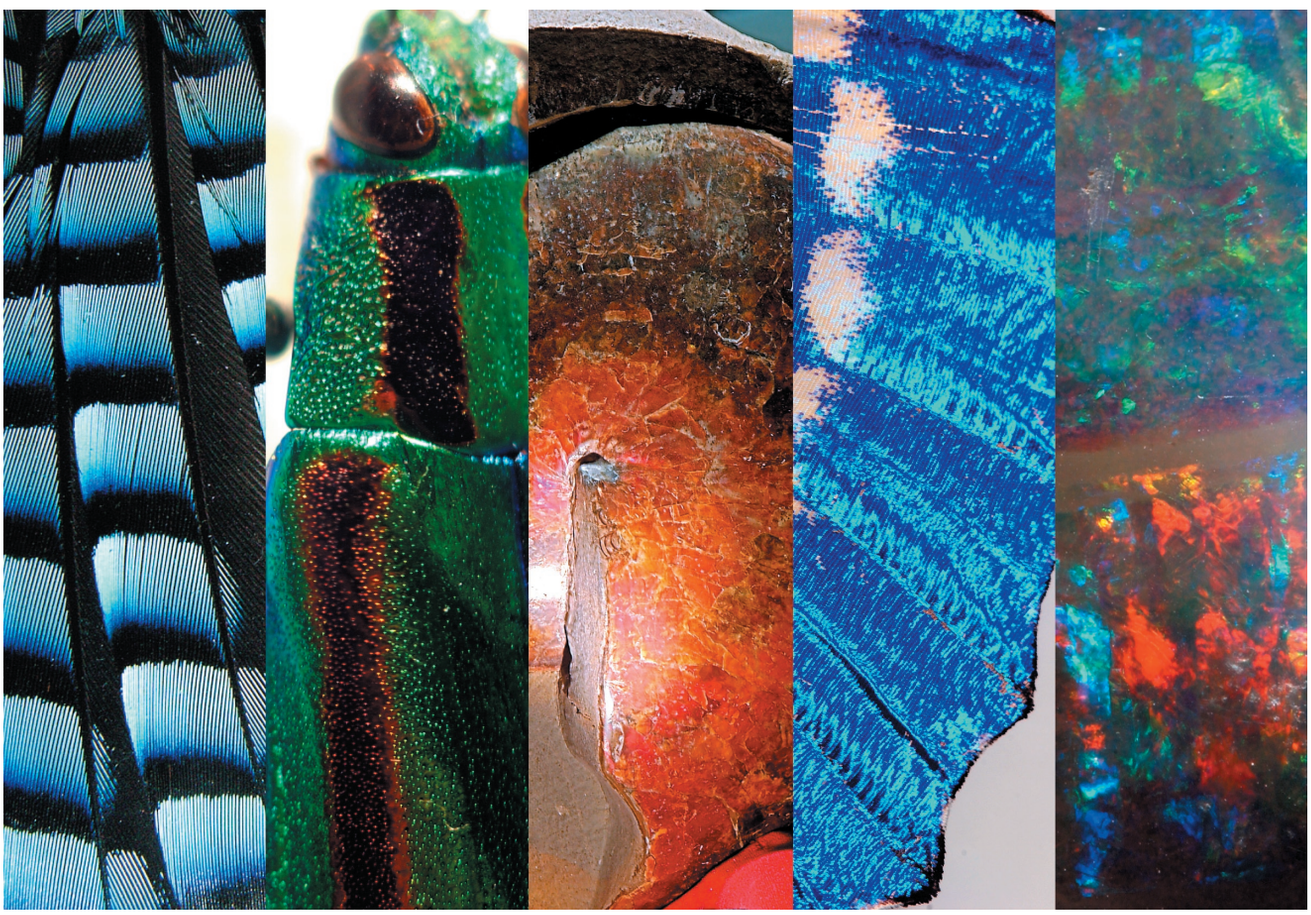
2006年12月15日発行　年4回発行　通巻47号　ISSN 1341-545X

自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 12, No. 4　　神奈川県立生命の星・地球博物館　　Dec., 2006



展示室で虹色を楽しむ

（左からカケス，ヤマトタマムシ，レインボーアンモナイト，キプリスモルフォ，オパール［たんぱく石］）

田口公則（学芸員）

自然史博物館には、多様な動植物や岩石・化石などの資料があります。そして、ストーリー性をもって様々な資料が展示されています。何度も博物館に訪れる方は、このストーリーにこだわらずに自分の見方で展示物を楽しむことも一興です。

当館で目を引く展示物の一つが、青く輝くモルフォチョウです。この青く輝く美しい色は、構造色とよばれるものです。構造色とは、色素をもった色の反射ではなく、光の回折・屈折・干渉・散乱によって微細構造がもたらす色のことです。

当館の自然史資料には、他にどんな「構造色」あるだろうか？と気にしながら展示室を歩いてみました。上の写真が展示室で見つけた構造色です。地球展示室で虹色に光る鉱物がオパールです。レインボーアンモナイトの紅色も構造色です。おそらく貝殻の真珠層の構造が化石として保存されたのでしょう。鳥の羽にも構造色があります。カケスやコガモに青色の羽を見つけました。生命展示室には、輝く昆虫が並んでいます。

私にとっては見慣れた展示室ですが、ちょっとした視点を持つことによって、展示室で自然の芸術の美に感動しました。